

モノレールの利用促進としてのレンタサイクル 利用実証実験(福岡県北九州市)の概要 (平成14年8月～平成15年1月)

背景

北九州市では、小倉地区都心部において交通渋滞が発生しており都市環境の悪化が懸念されている。また、北九州都市モノレール沿線でも特に都心部流入部において渋滞が発生している。このため、市では交通混雑の緩和を目的にパーク&モノレールライド等のTDM施策や、公共交通機関の利用促進のため北九州市公共交通戦略プランを策定してきた。

実験の概要

北九州市小倉都心部等への交通手段としてレンタサイクルとモノレールを利用してもらうことで、渋滞の緩和や環境負荷の低減を図る

レンタサイクルの有料化(定期利用:2,000円/月、一時利用:100円/時)

通勤通学の有料での利用者ニーズ、採算性の調査

多目的な共同利用(時間貸しの導入)

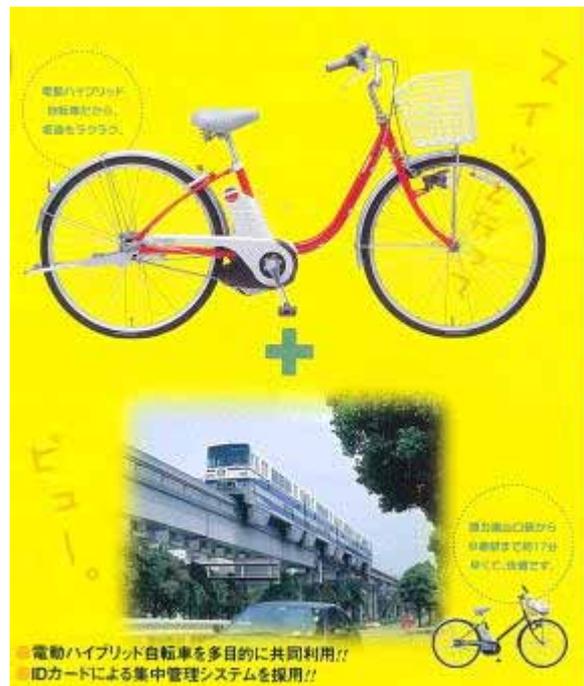
通勤通学の定期利用、買い物等の一時利用、駐輪場の省スペース化

IDカードによる自動集中管理システム

利用手続きの簡素化による利便性向上

電動ハイブリッド自転車の導入

実施主体 北九州市、北九州高速鉄道(株)



実験の成果

定期利用者数は28人、一時利用者は延べ140人となった。

全体の延べ利用回数は1919回となった。

自動車利用については、レンタサイクル利用者に対するアンケートによると、63%の人が減ったと回答し、自家用車の利用抑制に効果があった。

規模の問題もあり、渋滞緩和の直接的な効果は得られていないが、アンケートによると環境意識の高まりにつながった。

実験後の状況

事業として継続するには採算性が厳しく、本格実施に至っていない。